

正信偈稽古和讚
全

特71

637

300942-000-5

特71-637

正信偈稽古和讚

寺田熊治郎/校

M21.10

ABA-0041



正信偈秘旨古和讚 全

特 71

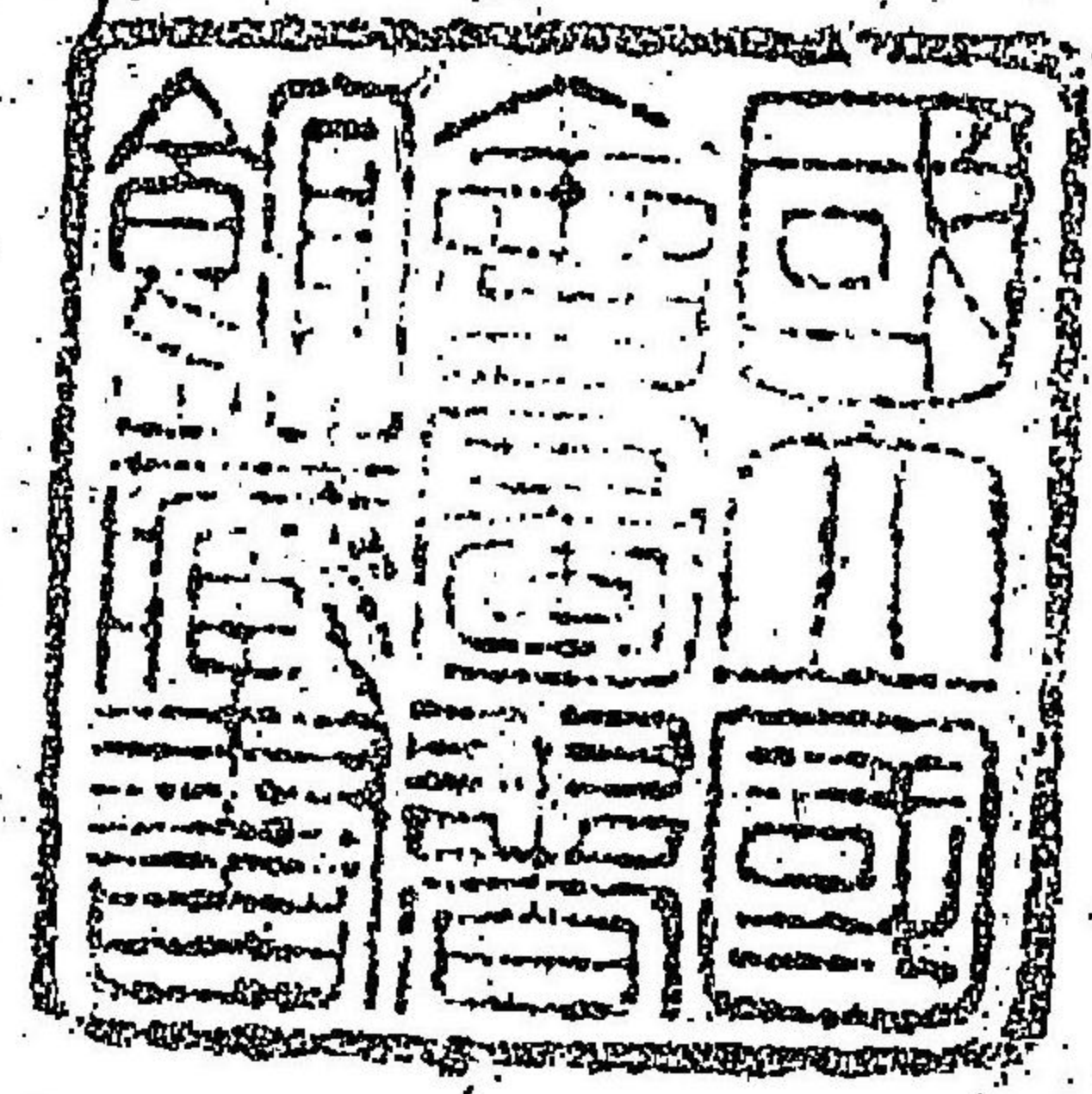
637

12050

在法南歸
 世藏无命
 自菩不无
 在薩可量
 王曰思壽
 佛位議如
 所時國來



持
63



52. 0. 2
77W20227

无 普 重 五 超 建 國 觀
身 放 誓 劫 發 立 土 見
无 无 名 思 希 无 人 諸
對 量 聲 惟 有 上 天 佛
光 无 聞 之 大 殊 之 淨
炎 邊 十 攝 弘 勝 善 土
王 光 方 受 誓 願 惡 因

必成至本
至等心願
滅覺信名
度證樂號
願大願正
成涅槃爲定
就槃因業

一切羣生蒙光照
超日月光
照塵刹
不斷難思无稱光
清淨歡喜智慧光

應 五 唯 如
信 濁 說 來
如 惡 彌 所
來 時 陀 以
如 羣 本 興
實 生 願 出
言 海 海 世

能 不 凡 如
發 斷 聖 衆
一 煩 逆 水
念 惱 謗 人
喜 得 齊 海
愛 涅 迴 一
心 槃 人 味

攝取心光常照護
已能雖破无明闇
貪愛瞋僧之雲霧
常覆真實信心天

譬如日光覆雲霧
雲霧之下明无闇
獲信見敬大慶喜
卽横超截五惡趣

一 切 善 惡 凡 夫 人
聞 信 如 來 弘 誓 願
佛 言 廣 大 勝 解 者
是 人 名 分 陀 利 華

彌 陀 佛 本 願 念 佛
邪 見 憍 慢 惡 衆 生
信 樂 受 持 甚 以 難
難 中 之 難 无 過 斯

印度西天之論家
中夏日域之高僧
顯大聖興世正意
明如來本誓應機

釋迦如來楞伽山
爲衆告命南天竺
龍樹大士出於世
悉能摧破有無見

應報大悲弘誓恩
唯能常稱如來號
自然卽時入必定
憶念彌陀佛本願
信樂易行水道樂
顯示難行陸路苦
證歡喜地生安樂
宜說大乘无上法

天親喜薩造論說
歸命无寻光如来
依修多羅顯眞實
光闡橫超大誓願

廣由本願力廻向
爲度羣生彰一心
歸入功德大寶海
必獲入大會衆數

得至蓮華藏世界
卽證真如法性身
遊煩惱林現神通
入生死菌示應化
本師曇鸞梁天子
常向鸞處菩薩禮
三藏流支授淨教
焚燒仙經歸樂邦

天親喜薩論註解
報上目果顯誓願
往還廻向由他力
正定之曰唯信心
惑染凡夫信心發
證知生死即涅槃
必至无量光明土
諸有衆生皆普化

道 緯 決 聖 道 難 證
唯 明 淨 土 可 通 入
萬 善 自 力 敗 勤 修
圓 滿 德 號 勸 專 稱

三 不 三 信 誨 懇 懃
像 未 法 滅 同 悲 引
一 生 造 惡 值 弘 誓
至 安 養 界 證 妙 果

善導獨明佛正意
矜哀定散与逆惡
光明名號顯曰緣
闕入本願大智海
行者正受金剛心
慶喜一念相應後
与韋提等獲三忍
卽證法性之常樂

源信廣闡一代教
徧歸安養勸一切
專雜執心判淺深
報化二土正辨立

極重惡人唯稱佛
我亦在彼攝取中
煩惱彰眼雖不見
大悲无倦常照我

本師源空明佛教
憐愍善惡凡夫人人
真宗教證興片州
選擇本願弘惡世
還來生死輪轉家
決以疑情為所止
速入寂靜無為樂
必以信心為能入

● 南	● 南	● 南	● 南	初
南	南	南	南	
无	无	无	无	
阿	阿	阿	阿	
弥	弥	弥	弥	
陀	陀	陀	陀	
佉	佉	佉	佉	

唯	道	拯	弘
可	俗	濟	經
信	時	无	大
斯	衆	邊	士
高	共	極	宗
僧	同	濁	師
說	心	惡	等

一 彌陀成佛のこのかた

いまだ十劫とすまひ

法身の光輪きりもなき

下世の盲冥地てらさる

南无阿弥陀仏

南无阿弥陀仏

南无阿弥陀仏

南无阿弥陀仏

南无阿弥陀仏

智慧の光明をうらまへ

有量の諸相とどくく

光曉かふらぬものなき

上 眞實明に歸命せよ

南无阿弥陀仏

南无阿弥陀仏

南无阿弥陀仏

南无

阿弥陀仏

南无阿弥陀仏

重

南无阿弥陀仏
 南无阿弥陀仏
 南无阿弥陀仏
 南无阿弥陀仏

解脱の光輪をいふなり

光觸かふるもののみあ
 有無とるなるとのびまよ

上平等覺又歸命せよ

南无阿弥陀佛
南无阿弥陀佛
南无阿弥陀佛
南无阿弥陀佛

光雲无碍如虚空

一切の有碍の如き

光澤かふらぬものを

上難思議域歸命せよ

三
重

• 南无阿弥陀佛

• 南无阿弥陀佛

• 南无阿弥陀佛

• 南无阿弥陀佛

• 南无阿弥陀佛

• 南无阿弥陀佛

• 南无阿弥陀佛

• 南无阿弥陀佛

• 南无阿弥陀佛

清淨光明あまらばな

遇斯光のゆゑ形もた

一切の業繫ものぞこまぬ

下 畢竟依を歸命せよ

南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏 南無阿彌陀仏

佛光照曜寂第一

光炎王佛とあつけたる

三塗の黒闇ひらくなり

中大應供我歸命せよ

願以此功德
平等施一切
同發菩提心
往安樂國

二道たう光明朗超絶せつなり

清淨光佛きやうじやうくわうぶつとまじうする

ひとたび光照くわうしやうかふるりの

中業垢しゆごうとのぞり解脱げつたつなり

慈光じくわうをるかふるむらりち

ひるまぬひるまぬさるむらりち

法喜ほふきどうとどのべたまふ

中大安慰ちゆうだんあんゐ我歸命われきめいせよ

無明むみやうの闇やみを破やぶするゆへ

入いちちいいここここここここここここここここ

智慧ちゐ光佛くわうぶつとあつあつけけるる

一切いっけつ諸佛しよぶつ三乘さんじやう衆しゆ

上うへどもに嘆なげ譽ほめ志こころすままるる

光明くわうみやうてららししててわわららぬぬを

入いちちいいここここここここここここここここ

不斷ふたんと光佛くわうぶつとああららむむひひららるる

聞き光力くわうりきのゆゆへへああままささを

上うへ心こころ不ふ斷たんんてて往かう生じやうままるる

佛光測量もきめふ

難思光佛とまづひらり

諸佛の往生嘆どつ

下 弥随の功德と稱せむ

神光の離相とまづひらり

无稱光佛とまづひらり

日光成佛のひらり

中 諸佛の嘆どつ

光明くわうめい 月日げつにち 勝過しょうと して

超てい 日月光にちがくわう であつげんり

釋しやく 迦曩かなん どもあつげんり

上 无む 等等とうとう と 歸命きめい せよ

弥み 陀た 初會しよかい の 聖衆せいしゆ の

等とう 數すう の およぶ ことを なら

淨じよ 土ど と 祿ろく づ めん ひとら みる

下 廣くわう 大だい 會かい 哉や 歸命きめい せよ

安樂無量の大菩薩

一生補處にりる形

普賢の徳に歸してこそ

中穢國をやくを化す

十方衆生のためにと

如來の法藏ありてぞ

本願弘誓ふ歸せしむる

中大心海に歸命せよ

觀音勢至も為ともか

慈光世界を照曜し

有縁は度しきるるも

下 休息ありきるるも

安樂淨土にさるるも

五濁惡世ふかしくも

釋迦牟尼佛のまゝに

利益衆生はきるるも

神しん力りき自じ在ざいあること

測そく量りやうさへんせんせんせん

不ふ思し議ぎの徳とくのつら

上じやう无むい上じやう尊そん茲こゝ歸き命めいせよ

安あん樂らく聲せう聞もん菩ぼ薩さつ衆しゆ

人じん天てん智ち慧ゑやぐらゆり

身しん相さう莊じやう嚴げんみまおや

中ちゆう他た方ほうに順じゆんとて名なとつゝぬ

顔容端政たぐいあり

精微妙軀非人天

虚无之身无極體

上 平等力と歸命せよ

安樂國茲存ふひと

正定聚にこそ住まはる

邪定不定聚くあはる

上 諸佛讚嘆したまはる

十方諸有の衆生ハ

阿耨陀至徳の御名を

眞實信心のりて

上おやまふ所聞と慶喜せん

若不生者のちういせ

信樂まことんんん

一念慶喜せんんん

中往生かあふんんん

安樂佛土の依正ハ

法藏願カのみせらるるなり

天上天下にたぐひぬ

中大心カ成歸命せよ

安樂國土の莊嚴ハ

釋迦无碍のみことにて

とくともつたふとのみこと

上无稱佛成歸命せよ

已今當の往生

この土の衆生のと

十方佛土より

上无量无数不可計

阿弥陀佛の御名

歡喜讚仰せしむ

功德の寶珠具足

下一念大利无上

たとも大千世界ふ

みでらん火とまじりて

佛の御名残さくひとら

上ふぐく不退ふかきふまう

神力无極の阿弥陀ハ

无量の諸佛やめたまふ

東方恒沙の佛國より

中无数の菩薩ゆたてまふ

夜初御

五十六億七千萬

彌勒菩薩

このことの信

このこと

念佛往生の願

等正覺

とよみち

大般涅槃

眞實信心しんじんのゆるゆるゆるゆる

とらぬら定聚じやうくわのゆるゆるゆるゆる

補處ほじょの殊勅しゆじやくにおるるおるる

无上覺むじやうかくををゆるゆるゆるゆる

像法ざうぽうのとらぬの智人ちじんを

自力じりきに諸教しよきやうとじとじおるるおるる

時機じき相應さうおうの法ぽうのゆるゆるゆるゆる

念佛門ねんぶつもんのゆるゆるゆるゆる

彌陀の尊號とて

信樂まことなるを

憶念の心は終よしと

佛思報ざるおもしろ

五濁悪世の有情の

選釋本願信とて

不可稱不可説不可思議の

功德の行者は身のみ

朝 晨

本師龍樹菩薩ハ

智度十住毘婆娑等

依くまておるく西とほめ

もく灸て念佛せしめり

南天竺に此在あらん

龍樹菩薩とあはれん

有無の邪見と破じしと

世尊はうそてめりし

本師龍樹菩薩ハ

大乘无上の法とさき

觀喜地と證してそ

念佛をめぐる

龍樹大士世ふいで

難行易行の道おし

流轉輪廻のつらさを

弘誓はふひんのせたまふ

本師龍樹菩薩の

おしとほくきうんひと

本願心にうけしめて

は孫と弥陀と稱せし

不退せしめおん

名んおもりんひん

恭敬の心に執持して

弥陀の名孫孫と

●南无阿弥陀佛の廻向の

息德廣大不思議

往相廻向の利益

還相廻向の廻入

往相廻向の大慈

還相廻向の大悲

如來乃廻向

淨土の菩提

彌陀觀音大勢至

大願のふりふ乗しくそ

生死れうみんうきん

有情はよやくとのま

彌陀大悲の誓願哉

ふく信せんしんみあ

縁もさあてもたて

南无阿彌陀佛とて

他方此信心うるは我

うまはるあやめふまはるんば

こまらちうまぶ親友を

教主世尊のあめたまふ

如來大悲の恩徳ハ

身以粉にしても報じし

師主知識乃恩徳も

かみうまらるる謝(空)

改悔文

えんろくくの雑行雑修自
力たこゝろをどうとて一心に
阿彌陀如來我等が今度
の一大事の後生御まよひ
候へとたれまのうして候

たのも一念のうとて往生一定
御助け治定とぞんしとれ
の称名の御恩報謝とぞん
よめとていまい候あのみ御と
しり聴聞まよひ候と
御開山聖人御出世れ御恩

次第相兼の善知識の御
ご存御勸化御思あり候
候の御存候御思あり候
る御おまじり一期おまじり
まじり候

未代无智の在家止住の男女たらん
ともかへん御存候御思あり候
佛の御存候御思あり候
御存候御思あり候
まじり候
御存候御思あり候
御存候御思あり候

下シテ此ノ法ニ依リテモ第十ノ念佛住生ノ誓願
此ノ法ニ依リテモ決定スルハ其ノ心ヲ
縁シテモ其ノ心ヲ定ムルハ其ノ心ヲ
稱名念佛トシテモ其ノ心ヲ定ムルハ其ノ心ヲ

それハ方ニ法ヲ藏スルハ其ノ心ヲ定ムルハ其ノ心ヲ後世

さレノ人ト愚者トシテモ二文不知ノ
尼入道者トシテモ後世ニモ智者
トシテモ當流ノ心ヲ定ムル
法ニ依リテモ其ノ心ヲ定ムルハ其ノ心ヲ
法ニ依リテモ其ノ心ヲ定ムルハ其ノ心ヲ
法ニ依リテモ其ノ心ヲ定ムルハ其ノ心ヲ

聖人の御ことごとく一切は男女たゞん身の
弥陀は本願と信ぜりてんるるなる
とていふも人々の心あるをばいふ
ゆへにさるる女人あるをばいふるの
雑行とてて一念も弥陀如来今度の
後生たゞんたゞんてんたの申え

人の十人の百人の千人の弥陀の報
に往生する事なればいふこと
とていふもこのちのちの
夫在家は尼女房たる人身の
もぬく一向の阿弥陀佛とて

かたはらざる時あり是ゆへに阿彌陀如來
と申奉るる諸佛をまことめて十惡五逆の
罪人をなれしはせんく大願をおこし
ましく阿彌陀佛をぬり給へりこれ
佛をぶれたのまこと一念御まは候と申
さん衆生をなれしはせんく正覺をばしと
ましくいま阿彌陀佛をぬり我等が極
樂に往生せんこと要まらざるは此
ゆへに一向に阿彌陀如來をばし給へ
とましくいま阿彌陀佛をぬり我身の
罪のまこと事なからんまこと佛をまらせ
ばらばら一念の信心をばしぬらばら

よき人八十人入るがごとく百人を百人を百人を百人を
浄土に往生せむ事なりといひて
これ申すはやくもくたうとておのひたせり
らん心のねらひにんが南無阿弥陀佛
くと時よといふは所よといふは後
念佛申すにんが南無阿弥陀佛の

念佛と申すのありかしく

信心獲得といふは第十八の願といふる
ありこの願といふるは南無阿弥陀佛
のいふにんが南無阿弥陀佛と歸
命する一念といふは發願廻向といふる

あぶじへてはまゝなるらひ弥陀如来梵夫不

廻向あきり一あきりまゝあきりゆあきりとあきりさあきりらあきりちあきりりあきりこれと大經あきり

ハ令諸衆生功德成就あきりととせけらあきりまあきりとあきりせあきりれ

无始あきり以來あきりはあきりくあきりつあきりとあきりつあきりくるあきり惡業煩惱あきりとあきりとあきり

るあきりとあきりもあきりちあきりくあきり願力不思議あきりとあきりめあきりいあきりくあきり消

滅あきりとあきりるあきりいあきりまあきりはあきりらあきりゆあきりめあきり正定聚不退あきりのあきりとあきり

お小住あきりとあきりとあきりありあきりこれあきりよあきりうあきりとあきり煩悩あきりとあきり断あきりせあきりて

あて涅槃あきりなあきりうあきりとあきりつあきりるあきりこのあきりこあきりとあきりゆあきりるあきり此義あきり

ハ當流あきり一途あきりの前談あきりるあきりものあきりなりあきり他流あきりのあきり不あきり

對あきりしてあきりかあきりぐあきりれあきりとあきり沙汰あきりあるあきりべあきりしあきりとあきりするあきり取あきりり

能あきりくあきりまあきりらあきりうあきりとあきりるあきりのあきりありあきりらあきりまあきりらあきりとあきりとあきり

聖人一流の御勸化は、おのこころの信心が
りて本とせしむ候そのおとくありくの
雑行とあげまて、一心は弥陀に歸命を
まへ不可思議の願力とて、佛の
より往生の治定せし、是たまふそのくちを
一念發起入正定之聚とて、釋しそのうは
稱名念佛の如來より往生とて、またい
御恩報盡の念佛とて、くちくちなり
あふりく

抑當流の他方信心は、おのこころの聽
同しく決定せしむる、おのこころの信心の

通^{とほ}と^と心^{こころ}底^{そこ}お^おち^ちり^りて^てた^たく^く他^た宗^{そう}他^た念^{ねん}
對^{たい}して^{して}沙^さ汰^たも^も今^{いま}か^から^らな^なま^まく^く路^ろ次^じ大^{だい}道^{どう}を^をれ
く^く在^あり^ます^すも^もあ^あら^らな^なま^まく^く入^いり^ます^す
讚^{さん}嘆^{たん}す^する^るに^にて^て守^{しゅ}護^ご地^ぢ頭^{とう}方^{ほう}
に^にて^てあ^あら^らな^なま^まく^く信^{しん}じ^じを^をて^てい^いく^くと^と躰^{たい}界^{がい}
の^の儀^ぎあ^あら^らな^なま^まく^く公^{こう}事^じを^をて^てい^いく^くと^と儀^ぎ

諸^{しよ}神^{しん}諸^{しよ}佛^{ぶつ}菩^ぼ薩^{さつ}も^もお^おろ^ろそ^そふ^ふま^まが^がら^ら
な^なま^まく^く南^{なん}无^む阿^あ弥^み陀^た佛^{ぶつ}の^のま^まを^をて^てい^いく^く
ま^まを^をて^てい^いく^く外^{がい}の^の法^{ぽう}を^をて^てい^いく^く
お^おも^もて^て内^{ない}心^{しん}を^をて^て他^たの^の信^{しん}を^をて^てい^いく^く
世^せ間^{けん}の^の仁^に義^ぎを^をて^てい^いく^く
今^{いま}當^{たう}流^{りゅう}の^のま^まを^をて^てい^いく^く

をうりよとみるく退散せりこれハ
佛法ハ本意をさうさうさうさう次第
ありしうふも不信心の面ハ一段の不審
とたて、信心ハ有光と沙汰とを
ささぬふるふの所詮ハ退散せり
法をささぬかたハおろくをんづのぬとく

思案とちうくへんことあり所詮
自今以後よとくく不信心の面ハ
たぐひハ信心ハ讚嘆ありとて肝
要あり

そま當流の安らとくもさるる
あまらちふら身ハ罪障のふさふ

もくろひをなす後くの難行のころを
や免て一心に阿彌陀如來に歸命し
今度の一大事は後生たすむべきを
あくたの牛人衆生とてくたす
たまふべきをさすむべきにあり
くろひがくはやくよくさるるべき

おんま百即百生おんま百即百生
にき毎月の寄合はきききききき
謝徳のたまふべきをききききき
信いと具足せしめしむる行者とも
ぶたのちりともかききき

明應七年二月廿五日書之

毎月兩度講衆中へ

八十四歳

葬式文

夫人間の浮生を相とらうく觀とるに
物不よそえ入りあはれものこの世の始中終
はけはじのよくめる一期あるとん

万歳の人身がらむくことし事と
一生とらたやうしりまふらうて
たとう百年此形身となのんや我
たれ人やまわいたやうなま
あはれまわいたやうなま
あはれまわいたやうなま
あはれまわいたやうなま

朝あの紅こう顔がんありて父ちちの白骨はくこつたる母
身みのよき不ふ常じょう此こゝ風かぜを
たふらひあつみのまふこたひあつみ
もつたうりたるうけたえぬまの紅こう顔がんむ
まの樂らくしを挑ひら木きはまをひらき
ぬるといひ六ろく親しん眷けん属じくのまうとあげ
かみあとも更さらふその甲かう斐ひあるぐん
さてもあつむ事ことあつむと野や外がい
ふさうの夜よ半はん此こゝけつとあし
ぬもたたる白はく骨こつのまはこれあつむ
中なくとあつむあつむ人ひと間まのま
事ことの老らう少せう不ふ定じょうのま
あつむあつむあつむ

報恩譜文

るやく後生の一大事哉心よかひそ阿弥
陀佛とふくたのこまらうせと念佛
誦うすをたれり此ありあなりとく

抑當國撰州東成郡生玉の庄内
大坂といふ在所へ往古よりいづある

約東のひろひろやとんぬる明應第五の
秋下旬せまるよしかつそあもあうこ乃
在所とみそありさうとてんくせとく
一字の坊舎ヲ建立させも當年ハハヤ
とてみ三年ハ歳霜とてんくせとて
するんち往昔の宿縁のつらなる回縁

おろしおろしおろしおろしおろしおろしおろしおろし
在所不居住せしむる根元あるが家生
涯とせらるるかすすじ榮花榮翟
これこそまじ花鳥風月もこころとよみ
あをれ無上菩提のためめめ信心決定の
行者も敵為昌せしめ念佛もまじえ

おろしおろしおろしおろしおろしおろしおろしおろし
おろし一念のまじおろしおろしおろしおろし
まじおろしおろし世間の人もおろしおろし
おろしおろしおろしおろしおろしおろしおろし
出来あらしおろしおろしおろしおろし
おろしおろしおろしおろしおろしおろしおろし

ののちうこれよいうていもく貴賤道俗を
まうをの金剛堅固の信心と決定せしめん
まごまごふ弥陀如来の本願みあひのまご
別しての聖人の御本意ふたつものまご
のの歎そふつし愚老はまごの當年の
八十四歳まで存命せしむる条不思議なり

まごふ當流法義にもあひかると歎れ
あつし本望のまごのまごのまご
のの歎まごの愚老當年の夏ごろより
遺例せしむるまごのまごの本復のまご
まごのまごのまごの當年寒中からまご
往生の本懐とすしむる条一定とすしむる

えんごのあえましく存命のうちはまきく
信心決定らまがし朝夕のいはんま
まふ宿善まをまふひまがう述懐の
こゝろまきくまをまふまをまふま
在所小三年は居住まをまふの甲斐ま
あひまがうまをまふまの十七ケ日

報恩講のうらまをまふまの信心決定あて
我人一同お往生極樂に本意とまが
たまごのまをまふまのま

明應七年十月廿一日よりまあて

まをまふまの信心ま
まをまふまのま

我わが說せ彼か尊そん功く德とく事じ○世せ尊そん我わが一いつ心しん

眾しゆ善ぜん無む邊へん如に海かい水すい 歸き命めい盡じん十じゅう方ぽう

所しよ獲くわく善ぜん根こん清せい淨じやう者しや 無む量りやう光くわう如に來らい

迴くわい施せ眾しゆ生せい生せい彼か國こく 願ねん生せい安あん樂らく國こく

欠

MISSISSING

太子七高僧之御忌日并本願寺御代之御忌日

聖德太子 二月廿二日 曇鸞和尚 五月廿六日

龍樹菩薩 十月十六日 道綽禪師 四月廿七日

天親菩薩 三月三日 善導大師 三月廿七日

源空上人 正月廿五日 源信和尚 六月十日

祖見真大師 弘長二年正月廿六日 顯如上人 文保元年七月廿四日

一如信上人 正安三年正月廿四日 准如上人 寬永七年七月廿四日

三覺如上人 觀應三年正月廿六日 良如上人 寬文三年九月廿七日

四善如上人 取應元年正月廿四日 寂如上人 享保元年七月廿七日

五綽如上人 明應元年正月廿四日 往如上人 元治元年八月廿六日

六 巧如上人 永享十三年正月 遊	五 存如上人 長祿元年正月 遊	四 蓮如上人 應永元年正月 遊	三 實如上人 文永五年正月 遊	二 證如上人 天保三年正月 遊	東 教如上人 應永九年正月 遊	宣如上人 萬治三年正月 遊	塚如上人 元祿七年正月 遊	常如上人 元祿七年正月 遊
湛如上人 應保元年六月 遊	法如上人 寬政元年十月 遊	文如上人 寶曆三年六月 遊	本如上人 文政九年十月 遊	一如上人 元祿三年四月 遊	真如上人 延享元年十月 遊	從如上人 室曆十年正月 遊	乘如上人 寬政元年二月 遊	達如上人 應永元年正月 遊

明治廿一年十月二十日刻成
 全 年今月廿一日御届 定價金 六錢

校訂者

下京区第五組鉄屋町錦小路七
 梅屋町十三番戸

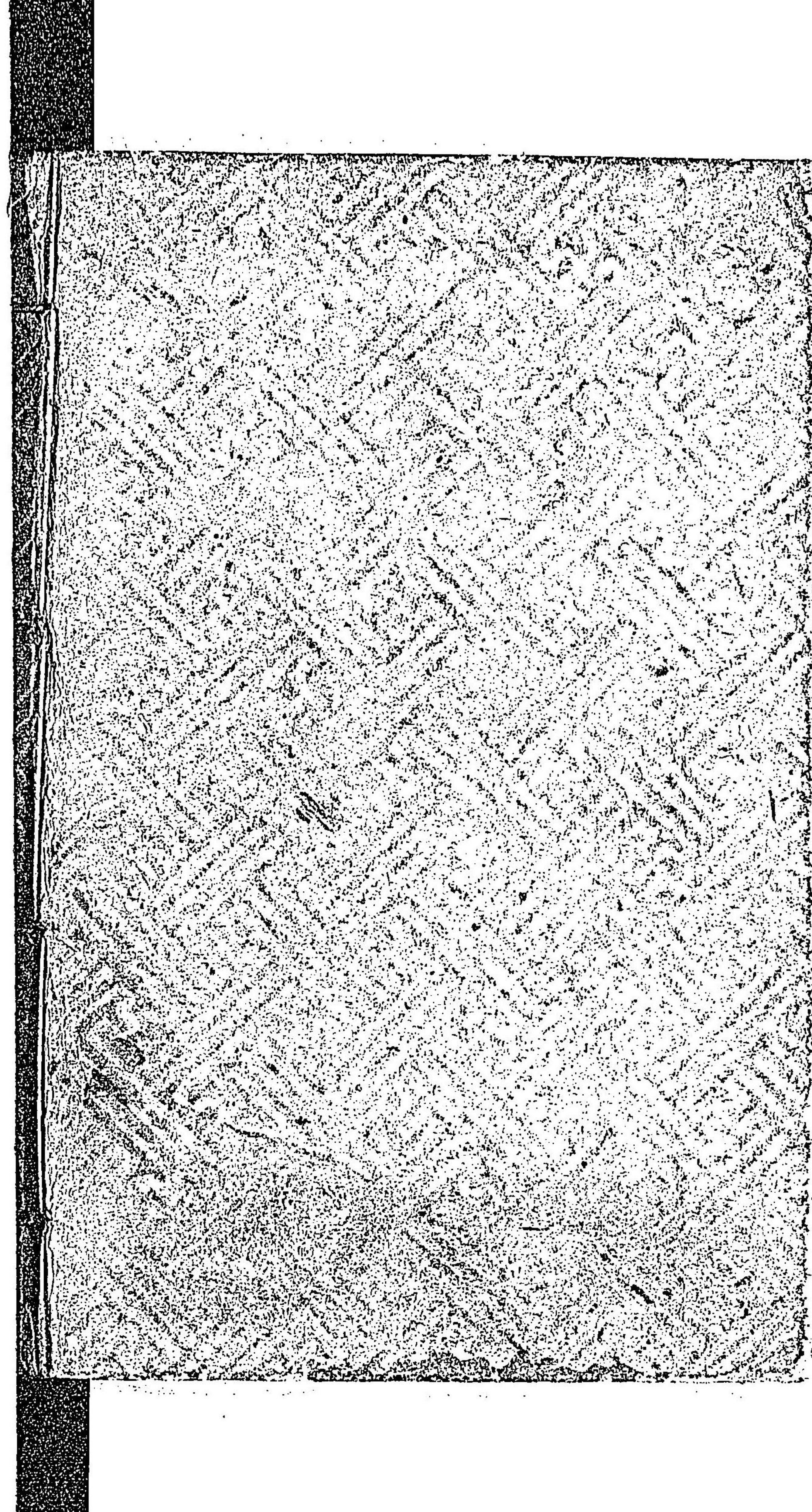
發行者

寺田熊治郎

下京十三組寺町綾小路下ル
 中ノ町十六番戸

印刷者

川勝徳治郎



夜初御

五ひ十ち六ろ億い七しち千せん萬まん

彌や勒らく菩ぼ薩さつののとととととと

ままののここととのの信しん心しんののいいららふふ

ここののいいららふふととももいいははららぶぶ

念ねん佛ぶつ往わう生じやうのの願げんにによよりり

等とう正しやう覺かくににららななるるひひとと

ととももいいららふふととももいいららふふととももいいららふふ

大だい般ぱん涅槃ねはんををいいららふふ